


特別付録

OPACで 本を探してみよう!

ス
ゴ
ロ
ク

取り寄せ


読みたい本が他の
キャンパスの図書館にあったら、
OPACで本の取り寄せを
申し込むことができます。
次の日には本が届きます。

2マス進む! 

ポータルサービス
にログインすれば自分の
貸出状況やサービス
申込状態を確認する
ことができるよ。


購入申し込み

読みたい本が図書館に
なかったら、買ってもらい
ましょう。やっぱりOPACで
申し込みます!

1マス進む! 

予約

読みたい本が貸し出され
ていたら、予約をつけよう。
OPACから申し込むことができます。
本が返却されたら、
お知らせメールも届くよ。

3マス進む! 

うっかり、貸出手続き
をし忘れて、本を持ち出し。
ゲートでブザーが鳴り響く!
ああ恥ずかしい。

ふりだしにもどる…。 

★本を図書館外に持ち出すときは必
ずカウンター・自動貸出機で手
続きをしてください。

山手線コンソーシアムとは?

正式名称「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」。

山手線沿線の8つの私立大学図書館(青山学院
大学・國學院大学・学習院大学・東洋大学・
法政大学・明治大学・明治学院大学・立教
大学)が提携協力し、「大学の垣根なく」
相互に利用出来るようにするための
取り組みです。

明治大学図書館の
本だけではなく、
「山手線コンソーシアム」
の各大学図書館にある
本も探せます。

GOAL!!



やったあ!
これで図書館
の達人ね。

読書のすすめ

— 教員からのメッセージ —

大学時代には様々な形で皆さんの周りに本が出現します。授業やレポートの課題図書、先生の推薦される本、友達が読んでいた面白そうな本、図書館にある万卷の書。人生でこれほどたくさんの、様々な分野の本に囲まれる時期はまずありません。さあ、一緒に本の海へ漕ぎ出しましょう！

今読みたい本を、今読む

— 私の読書法 —

図書館長／文学部 教授 吉田 正彦

大 学受験の勉強から解放された時、私が真っ先に手にしたのは、これから専攻しようとしているドイツ文学とは異なる分野の本でした。タイトルは『新版・十八史略物語』、盤古による天地創造神話から宋までの中国の歴史を、少し地域を広げて言えば、耶律楚材を政治顧問に迎えた13世紀蒙古の成吉思汗に至るまでを、佐藤春夫、奥野信太郎、増田渉という作家や学者が物語風に書き改めたものでした。何故これを選んだのか。読みたかったからとしか言いようがありません。けれども半分の4巻まで読み終ったところで、この読書は終了しました。大学での勉強が始まり、その時々読みたい本を読む余裕がなくなりました。その後は学生として、教員として、とりわけ研究者として、必要に迫られた読書に追われることになりました。それでも読みたい本があれば、例えば通学や通勤の電車の中で楽しむことができました。その際の対象は多種多様で、文学作品、評論や論文も薄い文庫本ならば1日1冊は読むことができました。また、最初に就職した大学では図書館の書庫に日参して本をあさり、明治時代に落語を聞き書きしたシリーズを見つけた時は至福の瞬間でした。また、偶然にお茶の水橋周辺の楓の木で昆虫の幼虫を見つけた時には、その正体が知りたくて、国立科学博物館の研究員に教えてもらい、甲虫の生態に関する本に没頭したこともあります。

このように見ますと、全く脈絡のない読書をしているのじゃないかと、自分でも思います。その時々読みたい本を読むということは、こんなものかもしれません。でもそのなかで、読書の工夫が自然に会得できたようです。例えば文学作品は数日かかってでも丁寧に読み、論文ならば要旨を読み取るという風んです。実はこれが、「必要に迫られた読書」にも応用することができたのです。つまり読みたい本を多読することによって、丁寧に読んだり、ストーリーのみですませたり、要旨を読み取りやすくなるのがいつの間にかできるようになっていたのです。「今読みたい本を、今読む」—、これが私には最

良の読書法だったというわけです。こうした方法で読んだ本から、時には専門の研究に結び付く発見もあります。現在の私の研究テーマは昔話や伝説など今日に伝わる「物語」の形成過程を探ることなのですが、例えばある古典落語が、中世ヨーロッパで好まれた物語や『今昔物語集』に収められた語と祖先を同じくしているのじゃないか、と。わくわくする発見ではないでしょうか。

ところで10年余り前のこと、中学時代の同窓会の席で旧友が話し掛けてきました。数十年ぶりの再会です。昭和30年代前半のわが田舎町では、ひとクラス55人もの生徒のうち3分の1が就職。彼らは進学希望者と同じクラスで勉強していました。彼もそのひとりで、3年生の授業の大半を机にうつ伏して過す有様でした。実は私もある工芸家のもとで職人になることを夢見ていたのですが、それを知った母は、進学するようにと私を説得しました。お前に職人修行をさせることができる程、わが家は豊かじゃあないのだから、と。この言葉をどう解したらよいか分らないままに、私は進路の変更を担任の教師に申し出たのでした。これに興味を抱いたらしく、彼から親しく話し掛けるようになっていたのです。同窓会での話によると、彼は卒業後2年間は家にこもって手当たり次第に2000冊ほどの本を読んだそうで、それを両親は黙って見守ってくれたのだと言います。その後大工の修行をして、今は建築に1、2年を要する高級な和風住宅を手掛けているが、その際注文主は、彼があつた2年の間にどんな本を読んだかを確認し、納得して建築を依頼するのだそうです。この話を聞いて、母の言葉が少し理解できたことでした。でも、読書が個人のひととなりを知るための物差しにさえなることもある—、心して読書に励みたいものですね。



YOSHIDA
Masahiko